

## 平成29年度第1回我孫子市文化財審議会会議録

- 1 開催日時 平成29年6月9日(金) 午前10時00分から正午まで
- 2 開催場所 我孫子市教育委員会 大会議室
- 3 出席者  
(委員)  
梅村恵子会長、金丸和子副会長、浅間茂委員、西川誠委員、古里節夫委員  
(欠席委員)  
佐野賢治委員、河東義之委員  
(事務局)  
小林信治生涯学習部長、鈴木肇文化・スポーツ課長、辻史郎主幹、木村亜由美主査長
- 4 挨拶
- 5 委嘱状の交付
- 6 議題
  - 1) 会長・副会長の選出
  - 2) 平成28年度事業報告と平成29年度事業予定
    - ①中里薬師堂十二神将の保存修復
    - ②旧井上家住宅二番土蔵保存整備工事及び母屋耐震診断
    - ③「歴史的・文化的資産の整備・活用について」と「白樺文学館リニューアル基本設計」の策定
- 7 そのほか  
根戸船戸遺跡1号墳出土遺物の「発掘された日本列島2017」への出展と頭椎大刀レプリカの寄附について
- 8 公開・非公開の別 公開
- 9 傍聴人 なし

## 10 議事概要

鈴木課長 本日は、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。本会は、平成29年度の第1回目文化財審議会になります。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、任期満了に伴い新委員として出席いただいております。会議の進行については『我孫子市文化財の保護に関する条例』第21条では、会議の議長は会長が行うこととなっておりますが、議題の1)で第20条に基づき会長と副会長を決めていただくまでの会議の進行は、事務局で務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、我孫子市情報公開条例第18条に基づき本会を公開するにあたり、傍聴人について報告いたします。傍聴人は、おりません。

初めに、本会の開催にあたり、生涯学習部長小林信治よりご挨拶をいたします。

小林部長 本日は、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。このたび、5月末日をもちまして任期が満了となり、再度、委員のお願いをしましたところご承諾をいただきありがとうございます。委員として引き続き2年にわたり御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

ご存じのとおり我孫子市は歴史・文化財が多く、自然にも恵まれています。市では文化財や自然を保護・保全することにとどまらず、学校現場や生涯学習を通じて「ひとづくり」や「まちづくり」に活かす取り組みを始めています。また、これまで単体でアピールしてきた文化財施設を連携させ、大正・昭和の我孫子の文化的・歴史的遺産として銘を打ち、まちづくりのひとつのツールとして魅力を発信する取り組みや、昨年指定をしていただいた「ヒカリモ」について内外にアピールしこれからのまちづくりに活かす取り組みを始めています。これらは、先生方に様々な形で我孫子市の文化財行政について大変なご尽力をいただいた賜物であると思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

鈴木課長 それでは、小林より委嘱状をお渡しいたします。

小林部長 (補助者：木村主査長)

- ・梅村恵子 (うめむら けいこ) 委員
- ・金丸和子 (かなまる かずこ) 委員
- ・浅間 茂 (あさま しげる) 委員
- ・西川 誠 (にしかわ まこと) 委員
- ・古里節夫 (ふるさと せつお) 委員  
(欠席者)
- ・佐野賢治 (さの けんじ) 委員
- ・河東義之 (かわひがし よしゆき) 委員

鈴木課長 平成29年度の文化・スポーツ課のスタッフを紹介いたします。私、昨年に引

き続き課長を勤めます鈴木です。辻主幹、木村主査長、本日研修により欠席しております田中主任主事はそのま在職ですが、須藤主査長は定年により退職いたしました。また、田中とともに研修のため欠席しておりますが、文化財主事として手嶋秀吾を採用しましたのでご報告いたします。人事については以上です。

それでは議題に入ります。議題1)の会長・副会長の選出につきましては、条例第20条の規定により委員の中から互選となっております。いかがお取り計らいいたしましょうか。

(再任の声あり)

鈴木課長 それでは梅村先生、会長をお引き受けいただけませんか。  
(会長職了承)

鈴木課長 金丸先生、副会長をお引き受けいただけませんか。  
(副会長職了承)

鈴木課長 よろしく願いいたします。これからの会議ですが、小林部長につきましては、所要のためここで退席させていただくこととなりますのでよろしく願いいたします。それでは、会議の進行をお願いいたします。

梅村会長 よろしく願いいたします。議事を進めさせていただきます。事務局から資料の確認をお願いします。

鈴木課長 資料を確認します。「会議次第」が1枚、資料1として「中里薬師堂十二神将の保存修復」、資料2として「旧井上家住宅二番土蔵保存整備工事」、資料3として「旧井上家住宅母屋耐震診断」、資料4として「歴史的・文化的資産の整備・活用について」、資料5として「白樺文学館リニューアル基本設計」、になります。お手元の資料をご確認ください。

梅村会長 よろしいでしょうか。では、議題に入ります。平成28年度事業報告①として「中里薬師堂十二神将の保存修復」について、事務局から説明をお願いします。

鈴木課長 資料1をご覧ください。指定文化財「中里薬師堂薬師三尊像及び十二神将」につきましては、平成27年度に薬師三尊像の保存修復を実施、引き続き28年度に十二神将像のうち「<sup>うま</sup>午・<sup>さる</sup>申・<sup>とり</sup>酉神像」の保存修復を実施いたしました。保存修復は、一昨年度の十二神将像と同じく、特定非営利活動法人 古仏修復工房が作業を行いました。所有者である中里区と仏師、教育委員会との打ち合わせにより、<sup>こうほ</sup>後補の修理箇所を除去し、破損した箇所を可能な限り復元を行うものの、<sup>はくらく</sup>彩色については新たに補色することはせず、剥落止め程度に止めております。修復作業の中で、<sup>うま</sup>午神像の右腕は<sup>い</sup>亥神像の右腕と入れ替わっていたことが判明し、<sup>さる</sup>申神像と<sup>とり</sup>酉神像の右足先が入れ替わっていたことが判明し、それぞれ元に戻しました。修復事業費は1,450,000円で、このうち50%に当たる725,

000円を我孫子市文化財保護補助金交付要綱に基づき、補助金として交付いたしました。

なお、十二神将像については毎年三体ずつ修復を行う予定で、29年度事業予定にありますように、今年度は「丑・辰・巳神像」の三体を修復する予定です。

また、29年2月に実施した「文化財展」において、薬師三尊像と午・申・酉神像を「出開帳」として「あびこ市民プラザ」で展示し、4日間で825人の来訪者を集めることができました。

梅村会長 それでは事務局からの報告について、質疑はありますでしょうか。

浅間委員 十二神将像の腹部分の金色が修復後なくなっていますが、元々金箔のようなものはなかったのでしょうか。

辻主幹 報告書によると、後の時代に上から塗られていることが判明したため、取り除く作業を行いました。地元の意向もあり新たな補色はせずに仕上げています。持物については、想定がつかないため手のかたちなどに合わせて違和感のないような物を持たせてあります。

梅村会長 光背の光輪はもともとあったのでしょうか。

辻主幹 部分的に残っている仏像もあり、台座の後ろに柄穴もあることから光輪はあったと思われます。

鈴木課長 十二神将像の修復が完了するのは平成31年度です。

辻主幹 仏像の部位が入れ替わっているため、その組み合わせ作業を行い、状態の良い仏像から3体ずつ修復をしています。

梅村会長 続きまして資料2の旧井上家住宅二番土蔵保存整備工事及び母屋耐震診断について、事務局から説明をお願いします。

辻主幹 旧井上家住宅については、平成27年度に実施した「表門・裏門・外塀保存整備工事」に引き続き、28年度に「二番土蔵保存整備工事」に着手しました。完成は30年7月末、工期は24カ月を予定しています。28年度には覆い屋をかけ、記録しながら全解体し、礎石を並べ直した後で木部の立ち上げまでを行いました。29年度は土壁の下地となる「竹木舞」を組んで、土壁を塗った後、瓦を葺き直すところまで行います。30年度には漆喰仕上げと下見板を取り付けて完成予定です。現在のところ、土壁塗りの最も基礎になる「荒壁付け」を終え、破損していた瓦を焼きなおして葺き直しに備えているところです。資料2はこれらの工程を示したものとなります。ご参照ください。

なお、今年5月13日（土）に一般参加者を募り荒壁付け（土壁塗り）体験会を行いました。子どもからお年寄りまで54名の参加があり文化財について知っていただく良い機会になりました。

続きまして、資料3、28年度に実施した「母屋耐震診断」についてご説明いたします。ボーリングによる地質調査の結果、深度23mでようやくN値50（大変硬い層）に到達します。それより上はもともと手賀沼であったところを埋め戻した軟弱な層です。結果として、旧井上家住宅の地盤は「150ガルの地震では危険性は低いですが液状化する、200ガル以上の地震では液状化の危険性が極めて高い」という判定でした。ただし、東日本大震災では、旧井上家住宅では顕著な液状化は起きていません。これらの地質状況をもとに、現状の母屋について、耐震診断を行ってみたところ、現状では建築物の設計上の耐震性能を示す「ベースシア係数」（水平耐力をその建物の重さで割った値。新築の場合は0.2程度）も0.15程度しかありません。大地震時には柱の折損が想定され、建物の倒壊の恐れがあることが判明しました。このため、a) 現状のままの基礎に建物を復元した場合、建物倒壊の恐れが強く、何らかの基礎補強を行う必要があると判断しました。基礎補強には、b) 底板一面に鉄筋コンクリートを配置する「べた基礎」と、c) 支持杭を打ち込んだ上に「べた基礎」を設ける工法、とがあります。理想はc) ですが、そのためには建物を曳家ないし全解体する必要があり、曳家スペースもなく、東日本大震災では液状化は起きていないことを考えると、多額の経費がかかるc) は現実的ではない、と考えました。b) は、液状化した場合、不同沈下を起こす恐れがあるものの、一様に強固な基礎を置くことによって建物の損壊を減らし、修復を容易にすることができることから、b) 「べた基礎」によって基礎補強をする案を支持いたしました。母屋の実設計は平成30年度に策定いたしますが、今回の耐震診断の結果をもとにした基礎補強プランを実設計に反映させていく予定です。

梅村会長           それでは事務局からの報告について、質疑はありますでしょうか。

浅間委員           この地質調査からどのようなことが読み取れるでしょうか。例えば深度3～4mは香取海の時代に有機物が混入したのか、あるいは、深度12～13mの貝殻が混ざっている部分は東京湾の頃に堆積したものであるかなど、興味深い読み取りができるのではないのでしょうか。

辻主幹              浅い所に関しては、江戸期以降の崖の土を崩して埋め立てたのではないかと思われます。貝殻の層が出てくる所に関しては、浅間先生のおっしゃるとおり、自然に干潟などが形成されたころの貝かもしれません。

浅間委員           この地質調査のデータは大変貴重なものなので、地質的な歴史を調べると面白いのですね。しゅんせつ土が入っている場合、かつて手賀沼に生息していたプランクトンが生き残っており、現在日本に存在しないプランクトンが出てくる可能性もあります。深度12～13メートル位の地層の土は非常に貴重なものだと思います。

辻主幹　　この土地の形成度合・生い立ちについては、展示または資料として示せばと思っ  
ています。

古里委員　　サンプルの中に貝殻の混ざっているものはないのでしょうか。

辻主幹　　掘削時の状況を再度確認します。

西川委員　　蔵は2棟ありますが、二番土蔵はどちらですか。

辻主幹　　漕場側から二番土蔵、新土蔵となります。元々は4棟ありましたが、一番と三  
番は腐朽が激しかったため前所有者により取り壊されました。

梅村会長　　続きまして、資料4「歴史的・文化的資産の整備・活用について」と資料5  
「白樺文学館リニューアル基本設計」の策定について、事務局から説明をお願いします。

鈴木課長　　我孫子市内には数多くの史跡があり、我孫子を特色付けるものとなっています。  
特に大正から昭和にかけての邸宅や別荘は、嘉納治五郎や白樺派を中心とした  
人々の所有であり、旧村川別荘、杉村楚人冠記念館は「手賀沼文化拠点整備計  
画」に位置付けて購入、整備しています。また我孫子における白樺派の活動を顕  
彰する白樺文学館は個人が設立した文学館を市が寄附を受けて運営しています。  
これら3つの建物は「我孫子の顔」として文化財としてだけでなく、まちづくり  
においても非常に重要となっています。「歴史的・文化的資産の整備・活用につ  
いて」は旧村川別荘、杉村楚人冠記念館、白樺文学館の特質を活かし、相互連携を  
深めていくことをめざして28年10月に策定したものです。今後は大正・昭和  
期の邸宅・別荘を「我孫子の大正・昭和文化遺産」と命名し、共通イメージをも  
たせて対外発信を行って行きます。また、重点施策として、3つの館の展示施設  
の核として、白樺文学館の施設・展示リニューアルを実施するとともに、マネジ  
メント役の正職の学芸員を配置する予定です。

この「歴史的・文化的資産の整備・活用について」をもとに、白樺文学館のリ  
ニューアルについて担当内で策定に取り掛かっているのが「白樺文学館リニュー  
アル基本設計（案）」です。この設計案は現状の建物を活かすことを前提として、  
現行法令をクリアし、白樺文学館としてのあるべき姿を盛り込んだものです。  
担当としては、この基本設計をもとに30年度に業者委託を行って実施設計を策  
定し、31年度にリニューアル工事に取り掛かっていきたいと考えています。来  
年度予算のこともありますので、8月中には基本設計原案を策定し、教育委員  
会等への報告を経て、9月には「基本設計」として固めたいと思っております。  
できれば、原案策定までに文化財審議委員のどなたかに主導的にご指導を賜れば  
と思っております。以上です。

梅村会長　　それでは、資料4並びに資料5について事務局からの報告が終わりました。質

疑、提案はありますでしょうか。

確認ですが、文化財審議委員会としてどのように係わるかということによろしいでしょうか。

辻主幹 資料4について、旧村川別荘、杉村楚人冠記念館、白樺文学館を連携させ共通イメージを持たせるという動きはすでに始まっています。

一番の課題は、資料5「白樺文学館リニューアル基本設計」について、どのようなリニューアルをするべきなのかということです。白樺文学館は、個人の住宅として建てられたものなので収蔵庫がほとんどなく、エレベーター周辺のバリアフリーの対応ができないなど、博物館、文学館として運営するには難しい部分があります。今後、文学館たるものとして、昨今の文学館を参考に我孫子らしさを活かしたりリニューアルを実施するためのご意見いただきたいと思います。

梅村会長 白樺文学館は趣のある建物で素敵な場所だと感じました。以前、建築基準法の関係で使用できない部分があると伺いましたが。

辻主幹 個人の住宅であれば使用可能な部分が建築基準法の延べ床面積の関係で3階の3分の2が封印され使えない状態です。その後法令の改正があり使用範囲が若干広げられるようになりました。

現段階の構想としては、2階部分に企画展示室と常設展示室を設け、3階は耐荷重の関係で資料収蔵には適さないので資料整理するための学芸員室に、地下のオーディオルームを収蔵庫として使用したいと考えています。

また、1階では日本民藝館から寄附を受けた柳兼子のピアノを活用したサロンコンサートや白樺派関係の小説を朗読するイベントを継続して行い、これらのイベントを活かしつつ時代に合わせた展示をしていければと思います。

梅村会長 ご提案等がありますか。

辻主幹 博物館等については古里先生が熟知されていらっしゃるのので、施設的な部分についてぜひご指導いただけないでしょうか。古里先生にご指導いただきながら原案を作り、展示の内容等については学芸員を含め相談し、再度審議会でお話しさせていただくということによろしいでしょうか。

古里委員 承知しました。

金丸副会長 志賀直哉邸跡書斎との連携はどのようになっていますか。

辻主幹 志賀直哉邸跡書斎は公園の一施設となっているため、今後できることとしては、土曜日と日曜日に4時間ずつ行っている公開日の拡大、イベントの実施、小展示を行うなどです。手賀沼文化拠点整備計画の際に復元等も検討しましたが、公園施設の中に建物を建てるのは面積的な制約等により至りませんでした。現在は、建物のレイアウトを示す解説施設と説明板を設置しています。

古里委員 公園内にある文化施設は、建ぺい率に入らないのではないですか。

- 辻主幹 公園内にある文化施設は陳列館という位置づけになってしまうので、建物にせ  
ずにパーゴラのような形であれば建ぺい率に入らないと確認しています。
- 梅村会長 公園ごとどこかに移動するという方法はいかがですか。
- 辻主幹 志賀直哉が実際に居住していた場所であり、別の家の書斎として曳家されてい  
たものを元に戻す際に公園整備を行いました。また、公園を設けるときの市民運  
動があったなどの経緯から別の場所に移動するのは難しいです。
- 梅村会長 白樺派の文学がほとんど読まれなくなってしまいましたね。我々が若いころは  
多くの方が読んでいました。志賀直哉は教科書に載っていますが。
- 辻主幹 学生などの認知度はいかがでしょうか。
- 梅村会長 武者小路はほとんど読まれないですね。
- 辻主幹 最近、文豪系の人が出てくるゲームソフトがありそこで興味を持つ方が多い  
ようです。
- 浅間委員 白樺派の代表的なものを紙芝居にしたらどうでしょうか。市民、ボランティア  
を集めて紙芝居をし、白樺派の文学に親しんでいただく。サロンコンサートなど  
をうまく利用し、市民参加の形をとっていくと新たな来館者が見込めるのではな  
いでしょうか。
- 辻主幹 今、市内の小学校で総合学習「身近な地域調べ」を行っています。まずは、5、  
6年生が自分の学区内のセールスポイントについて調べ、そこで調べた内容を  
3年生に説明するというものです。子どもが子どもに説明するというとても良い  
流れができています。実は、過去に紙芝居をやったことがありますがお年寄りが  
多かったという経緯があります。こうした地域学習を通して子どもたちとの連携  
を深め、白樺派文学をより身近に感じ、教科書以外のところで文学に出会えるき  
っかけになればいいと思います。
- 金丸副会長 図書館のイベントの紙芝居では、子どもたちは喜んで観ているようですが。
- 辻主幹 やり方の工夫と集客方法の検討が必要だと思います。図書館も近くにありま  
すので、今後、共同のイベントを企画したいと考えています。
- 金丸副会長 白樺文学館の地下のオーディオルームはとても素敵な場所なので、集会などに  
使用することはできないのでしょうか。
- 辻主幹 重量のある書籍や、絵画など大型の収蔵物が増えていること、また、展示替え  
の際の作業スペースが不足していることを考えると、やはり地下を収蔵庫にする  
のが望ましいかと思います。
- 金丸副会長 残念です。
- 辻主幹 今までの方が良かったとの声も上がるかと思いますが、現状のままでは如何と  
もしがたい状態ですので計画を進めていきたいと思っています。
- 浅間委員 新しいものに代わると抵抗を感じるので、古いもの残しながら上手く変えてい

く方が良いですね。

梅村会長 資料が系統だっていないということでしたがどうお考えですか。

辻主幹 購入もしくは寄贈を積極的に受け入れる。日本民藝館や近代文学館等に働きかけレプリカを作成し、見せられるものを増やしていくことが必要と考えています。特に白樺派が活動した大正の我孫子時代のレプリカを作成できればと思います。

梅村会長 以上で議題が終わりましたので、「そのほか」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

辻主幹 文化庁主催の「発掘された日本列島2017」に我孫子市白山に所在した根戸舟戸遺跡1号墳出土遺物が出展されることとなりました。展示会は6月3日から7月23日まで江戸東京博物館で開催され、その後、青森・三重・愛知・長崎と巡回し、平成30年2月25日までとなっています。主な出土遺物として頭椎大刀があります。6世紀末から7世紀初頭に大和王権によって東日本の古墳首長に下賜された、と考えられているものです。我孫子では初の出土で、平成27年から28年にかけて保存処理を行い、28年2月に文化財展で展示をいたしました。その際に、「レプリカを作成すれば、より多くの人々に我孫子の歴史を知ってもらえるのではないか。レプリカを作成して寄附したい」という市民の申し入れがありました。協議の結果、寄附申し出の内容としては、出土状態のレプリカ、古墳時代当時のレプリカ、現物の保存ケースの3点ということとなりました。これを受けて、文化財専門のレプリカ業者を探し、3Dスキャナで情報を読み取って3Dプリンタで元型を作成し、遺物に非接触でレプリカを作成する業者を選びました。古里先生にも作業途中にご助言をいただき、5月に納品されました。「列島展」には寄付されたレプリカのうち、古墳時代当時のレプリカも出展されます。3月末には我孫子に戻ってくる予定ですので、市民向けの展示会、講演会などを行う予定です。

梅村会長 何かご意見、ご質問などがありますでしょうか。

(意見等なし)

梅村会長 よろしいでしょうか。それでは、以上を持ちまして本会を終了いたします。